○行政学　　法学研究科・教授・宮　脇　　淳

本授業は、3年次生を対象として、国・地方を通じた行政組織の体系、官僚の意思決定や行動の特性、予算・財政、公務員制度など行政に関する基礎的理解を深めると共に、行政改革、官民連携、政策過程等行政を巡る諸問題を取り上げ、政治、経済、社会等幅広い視野から行政を鳥瞰し理解できる能力を養うことを目的とした。

授業全体を通じて留意した点としては、次の諸点が上げられる。第1に具体的事例を常に織り込み、理論に普遍化する流れで授業を展開したことである。天下り、小泉内閣の市場主義改革、日本道路公団の民営化問題、苫小牧東部開発第三セクターの破綻、親切なたらい回し現象、市町村合併など行政を巡る具体的問題に焦点をあて、そこから発せられる光を行政学のプリズムで凝縮し普遍化する流れを授業の中で展開した。さらに、断片的批判に陥りがちな行政問題への視野を理論的関心に高めるため、類似した事例を相互比較しそこに内在する共通点を見せることで、一見無関係に思える現象にも理論的共通点が存在しそれを掘り起こすことへの関心を高めるように努めた。

第2に、行政を取り囲む環境のうち経済的視点に重点を置き、経済現象、経済構造と行政の関わりを紐解くことで、行政への関心をより身近なものにする授業を展開した。企業収益、所得、失業率、財政赤字、公共投資額等経済・景気動向、行財政に関する身近な数字を紹介し、その数字の形成から検証までを一貫して示すことで、数字の裏面にある思想を洞察することへの関心を高めるようにし、また、経済・市場と政治・行政を対比すると共に、経済学的政策的思考と行政学的政策思考の違いを紹介することで世の中で展開されている議論の枠組みを学生自ら整理できるように努めた。

第3に、以上の具体的事例や数的情報を「人」の問題に結びつけることで、人間行動の集積としての行政学の魅力を伝えると同時に、日常的に自ら検証できることに重点を置いて授業を展開した。官僚で展開される意思決定の特性とその前提にある限定された情報の問題、行政組織のX非効率などを人間行動の面から紹介することで、行政で展開されている取り組みが学生の日常生活の中でも規模・視野を変えて展開されていることを認識し、日常生活の中で問題点の抽出や改善に向けた方策を自らの問題として検証できるよう努めた。加えて、日常的検証を通じて「公」とは何かを常に意識してもらい、公共哲学への関心を高めるようにした。

第4に、学生が行政を自ら思考し検証できる基礎モデルを自分で形成できるように、黒板や資料等への記載ではフローチャートを示したことが上げられる。それによって学生自身が自ら形成したモデルを段階的に検証・修正し、さらにモデルの視野を拡充できるように努めた。

今回のアンケートでは学生から高い評価を得たものの、自らの自己評価では課題が山積する状況にある。第1に、具体的事例の整理が不十分であり、学生に対して体系立った紹介とは十分なっていないこと、第2に、学生との相互の応答が十分確保できず、学生のモデル形成に対するサポートが十分できなかったこと、第3に、以上の結果、学生の理解度を必ずしも把握した授業展開とならなかったこと、など今後検討しなければならない大きな課題となっている。